

【遊びの経過】

じゃんけん列車を楽しんだことがきっかけとなり、“駅作り”の活動が始まった。駅見学などの経験をもとに、自分たちで作った“駅”を使って、駅遊びを楽しみたいという気持ちが高まっている。

【ねらい】

自分なりに選びイメージしたものを形にして作ったり、思いを言葉にしたりして伝えようとする。

○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助

- ★子どもたちのイメージを引き出せるように駅見学の写真や絵、各駅のスペースを用意しておく。
- ★いろいろな素材に触れることができるように、部屋の中央に材料コーナーを作っておく。

○材料を選んでグループの駅にあるものを作る。

何を作ろうか。
【意欲】

これで何が作れるかな。
【想像】【思考】



〇〇を作るには、
何がいるかな。
【見通し】
【計画】

- 用意した材料の特徴や使い方を簡単に知らせることで駅作りへの期待感を膨らませるようにする。
- イメージできずに困っている子どもには、駅見学の写真や自分がかいた絵を見せたり、保育者も一緒に作ったりすることで、自分の作りたいものが作れるようにする。

○作ったものを駅（ダンボール）に置いたり、のりでつけたりする。

ここに階段が作りたいな。**【意欲】**

のりはつかないよ。
【葛藤】



紙を切って貼るといいよ。
【発見】

両面テープを使うといいよ。**【提案】**

本当だ。
【感動】

- 作りたいもののイメージに合わせて、材料を選び、切ったり貼ったりできるように、子どもの様子を見ながら声をかけていく。
- その子どもなりのがんばりを認めるとともに、作品を紹介することで、製作への意欲を高めるようにする。

- ★できあがった駅で遊べるよう、各駅をつなぐための線路を用意しておく。

○（参観日）できあがった駅で遊ぶ。

やったあ、ぼくの駅だよ。**【満足感】**

駅のお店屋さんに行こう。**【期待感】**



隣の駅みたいに△△をつけよう。
【工夫】

〇〇をもっとかっこよく改造するぞ。
【探究心】
【試行錯誤】

- 参観日に汽車ごっこの時間を設けることで、自分の製作を振り返り、表現に込めた思いなどについて、おうちの人に伝えることを楽しめるようにする。
- じゃんけん列車を行い、自分たちの作った駅で遊べることの喜びや友達と遊ぶ一体感を味わえるようにする。

【考察】

頭の中で思い描いているもの、見たり聞いたりして感じたことなど、一人ひとりの思いを今回は“駅”として形に表した。どんどんイメージが膨らんで自分の世界を楽しみ作った幼児もいれば、友だちに刺激を受けながら作ることに楽しさを感じた幼児もいる。ペースはそれぞれだが、自分で材料を選んだり、試行錯誤したりしながら作ったことで、より満足感が得られたのではないかなと思う。そして駅が形となって表れ、その喜びが自信となり、参観日の発表では思いを言葉にすることができたのだと感じる。子どもたちに、色々な形で“表現”しているので、その一つひとつを見逃さないようにしたい。